東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

留学白書 2024

2025.6

留学支援共同利用センター

『留学白書 2024』について

2014（平成 26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B:グローバル化牽引型）に東京外国語大学が選定されたこと契機に作成が開始された留学白書も 11 冊目となりました。SGU 事業は、2023 年度をもって終了しましたが、本学における留学状況の実態把握のために、本白書の作成は継続して取り組んでいます。

2024 年度の留学状況ですが、長期留学者数は、COVID-19 のパンデミック以前の水準まで回復しています。その一方で、短期留学者数は、2022 年度以降減少傾向を示しています。これは、国際情勢の不安定化や政情不安、治安悪化、世界的な物価上昇、為替相場における円安などが影響していると思われます。とりわけ留学コストの増大は、各家庭の大きな負担になっています。現代は、先行きの見通しが不透明な時代であり、今後も厳しい状況が続くと思われますが、ひとりでも多くの学生が自身にとって望むような留学を実現できるよう支援していきたいと考えています。

なお、本『留学白書 2024』は７章から成っています。Ⅰ章からⅥ章が分析編、Ⅶ章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2025 年 6 月

留学支援共同利用センター

目次

分析編

Ⅰ．留学の種類 6
１．長期留学 6
①交換留学（学部、大学院） 6
②ダブルディグリープログラム（DDP） 6
③休学留学（学部） 6
④自由留学（学部） 7
⑤長期インターンシップ等（学部、大学院） 7
⑥長期研究留学（大学院） 7
⑦海外フィールドワーク等（大学院） 7
２．短期留学 8
①ショートビジット（学部、大学院（修士）） 8
②スタディツアー（学部） 8
③短期自由留学 8
④短期インターンシップ（学部、大学院） 9
⑤日本語教育インターンシップ（大学院） 9
⑥Joint Education Program（JEP）（大学院） 9
３．オンライン留学 9
Ⅱ．2024 年度　留学状況について（概要・学部生） 10
Ⅲ．データから見える傾向や課題等について 14
Ⅳ．2024 年度　留学状況 15
１．学部学生（長期・短期総合） 15
①留学者総数 15
②学年別・期間別留学者数 15
③2014 年度から 2024 年度の期間別留学者数の推移 16
④学部別・期間別留学者数 16
⑤学年別、期間別の留学者割合の経年変化 17
２．学部学生（長期留学） 19
①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数 19
②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者） 19

③留学種類別長期留学者数の推移 20
④留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合 21
⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移 21
⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数 22
⑦留学先地域別長期留学者数の推移 23
⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数 24
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況 26
⑩2022 年度長期留学者の単位認定状況 28
３．学部（短期留学） 29
①留学種類別短期留学者数 29
②学部別・留学種類別短期留学者数 29
③学年別・留学種類別短期留学者数 29
④留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移 30
⑤留学先地域別・留学種類別短期留学者数 31
⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化 31
⑦留学先国別・留学種類別短期留学者数 32
⑧短期留学者の単位認定状況 33
⑨短期留学者の奨学金受給状況 33
４．大学院生（短期・長期） 34
①大学院生の長期留学について 34
②大学院生の短期留学について 34
③大学院生の奨学金受給状況 35
Ⅴ. 2024 年度学部卒業時点での留学状況について 36
①卒業生の在学中の長期留学回数 37
Ⅵ.SGU 指標 40
資料編 44

分析編

Ⅰ．留学の種類

本学では、長期留学で７つ、そして短期留学で６つ、留学の種類を分類しています。白書では、この 13 のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

１．長期留学

本学では、４学期制における１学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。
※新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2024 年 5 月 1 日現在で、本学が学術交流協定を締結している 73 カ国・地域の 244 の教育機関のうち、184 の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて４年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。多くの学生が受給しているのが、日本学生支援機構（JASSO）による海外留学支援制度（協定派遣）による奨学金です。それ以外に、各種財団、各国政府等による奨学金を受給して留学する学生がいます。

②ダブルディグリープログラム（DDP）

本学と海外協定校との間で、協定を締結し、在学中に本学および協定校の双方で単位を取得し、修了時に二つの学位が取得できるプログラムです。

■ダブルディグリープログラム・さらに詳しく■

2024 年度時点で、国際日本学部でセントラルランカシャー大学、メルボルン大学との DDP、大学院前期博士課程で、中央ヨーロッパ大学等との共同の HIPS プログラムがあります。

③休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行って留学をするものです。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が可能な留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必ずしも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

④自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015 年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業(※)」による派遣、在外公館勤務等も含みます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN 諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN 諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN 諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。

⑥長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学するものです。単位認定はありません。コチュテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチュテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関の双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

⑦海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究活動を実施するものです。

２．短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

①ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、１回の留学に対し２単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の８つの言語です。

全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学	１年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学（※）→チェンマイ大学で実施中	１年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	１年次夏学期
アラビア語	アレキサンドリア大学、アリー・バーバー・インターナショナル・センター	１年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学（※）	１年次冬学期
タイ語	チュラーロンコーン大学、シーナカリンウィロート大学、チェンマイ大学のいずれか	１年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	１年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学（※）	２年次冬学期

※2024 年度は実施せず

②スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」を履修します。ショートビジット同様、１回の留学に対し２単位が付与されます。

■2024 年度に実施したスタディツアー■
- 国連研修プログラム（アメリカ・ニューヨーク）　冬学期
- ウズベキスタン・スタディツアー　冬学期
- マレーシア・スタディツアー　冬学期

③短期自由留学

大学のプログラムを利用せずに個人的に探してきた短期の留学プログラムや、協定校以外が実施する短期語学研修プログラムに参加するものです。

④短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンター（GCC）が実施する海外での短期インターンシップに参加するもの、および、学生が個人的に応募して実施する３か月未満の海外でのインターンシップです。

■2024 年度に GCC が実施した短期インターンシップ■
- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）

⑤日本語教育インターンシップ（大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

2024 年度は、4 名の大学院生を、ベトナム、中国、台湾へ派遣しました。

⑥Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることになります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

３．オンライン留学

新型コロナウイルスのパンデミックにより海外渡航が制限される中、Web 会議システムなどの IT 技術を利用したオンライン授業が世界各地の大学で実施されています。こうしたオンライン・リモート環境下での留学を「オンライン留学」と呼ぶことにしています。

2024 年度は、オンライン留学の実績はありませんでした。

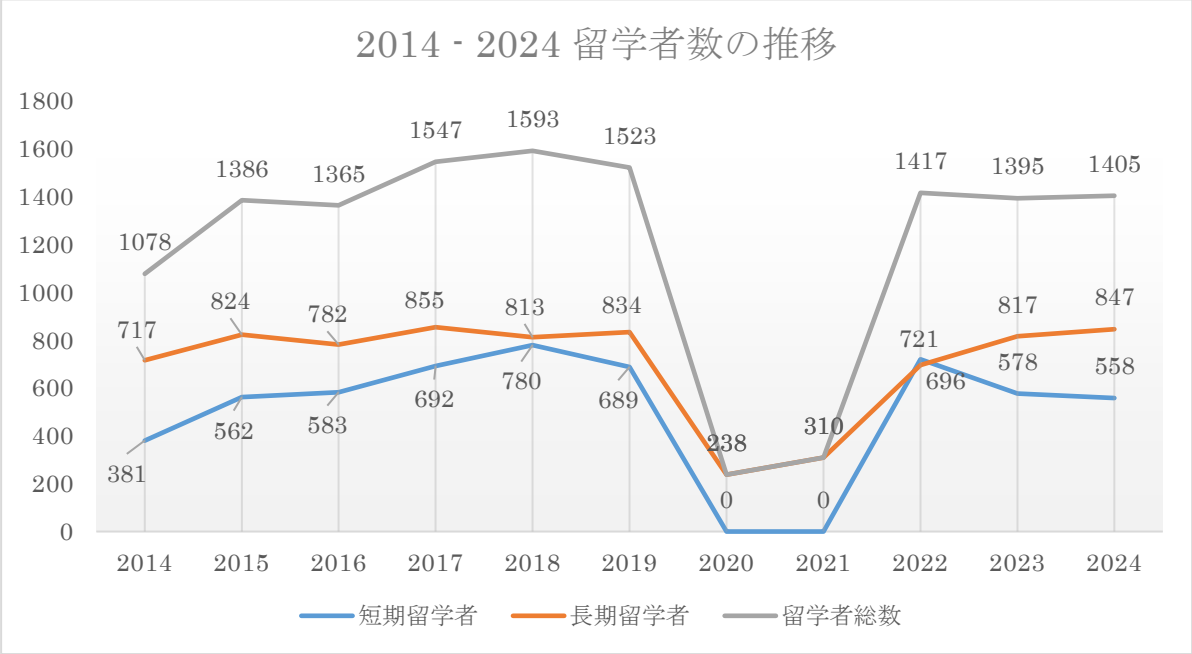
Ⅱ．2024 年度　留学状況について（概要・学部生）

2024 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の実績となりました。長期留学者については、2024 年度に留学を経験した人数（年度内出発者、年度内帰国者、年度内留学継続者）の合計です。

Table 1.　2024 年度短期、長期留学者数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	558	847	1,405	3,786

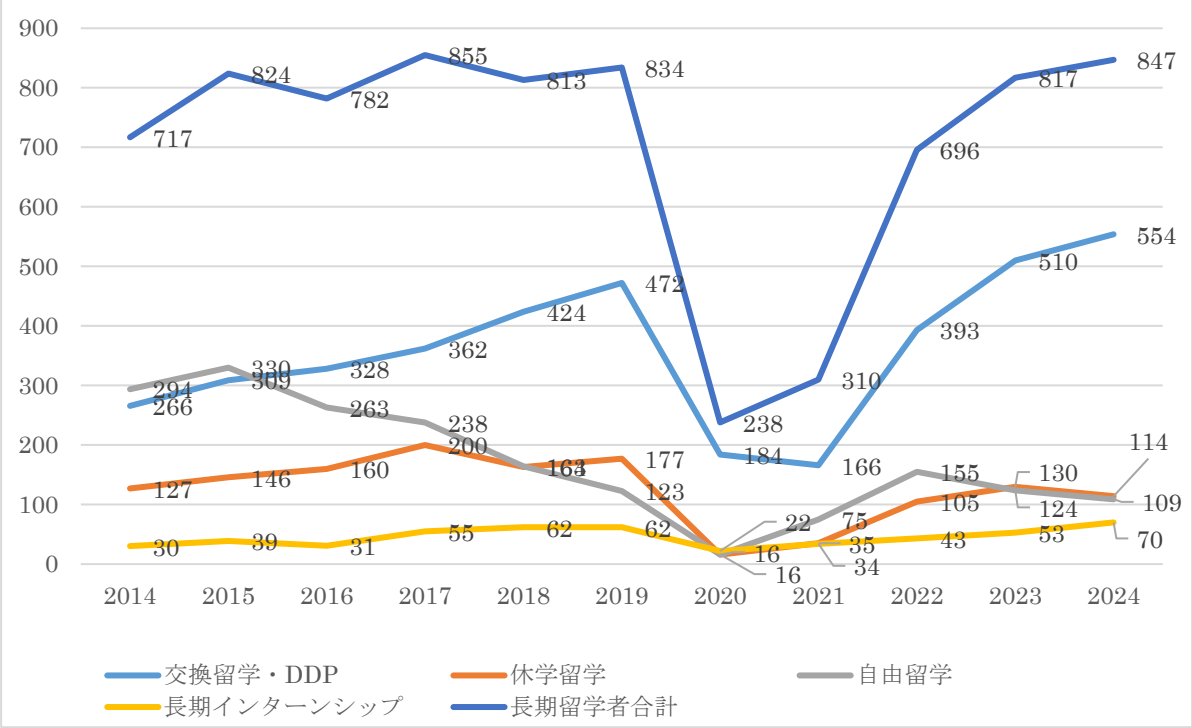
Table 2. 2014-2024　留学者数の推移



年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
短期留学者数	381	562	583	692	780	689	0	0	721	578	558
長期留学者数	717	824	782	855	813	834	238	310	696	817	847
合計	1078	1386	1365	1547	1593	1523	238	310	1417	1395	1405

留学者総数は、2023 年度と比較すると若干の増加となりました。長期と短期の内訳をみると、長期は 2023 年度に比べて 30 名増加となっている一方で、短期は、20 名減少となっています。長期留学者は COVID-19 パンデミック以前の水準まで回復しており、長期留学に対する意欲は従来から変わっていないことがうかがえます。学生交流協定校の数もわずかながら増加しており、そうした留学制度面での充実も寄与していると考えられます。一方で、短期留学者数は 2022 年度より連続して減少しています。この要因として考えられるのは、世界的な物価上昇、為替相場における円安による留学費用の高騰が影響していると考えられます。数年前と比較すると、留学費用は 1.5 倍か 2 倍くらいになっていますが、それに比して、日本国内の給与水準は大きく変わっていません。短期留学は長期留学に比べると、期間のわりには費用がかかるため、費用対効果の面から短期留学への参加を見送る学生もいるのではないかと推測されます。

Table 3.　種類別長期留学者数の推移



年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
交換・DDP	266	309	328	362	424	472	184	166	393	510	554
休学留学	127	146	160	200	163	177	16	35	105	130	114
自由留学	294	330	263	238	164	123	16	75	155	124	109
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	30	39	31	55	62	62	22	34	43	53	70
合計	717	824	782	855	813	834	238	310	696	817	847

①　長期留学者数合計について：昨年度よりも増加

2024 年度は、ロシア、ベラルーシ等、世界情勢の悪化から留学できない協定校がある中、留学者数は前年度よりも増加しました。イスラエルやサブサハラアフリカ地域でも情勢悪化が続いていますが、長期留学者数は 2023 年度に比べると 30 名増加し、COVID-19 パンデミック以前の水準まで回復しました。2014 年度以降で比べると、2017 年度に次いで 2 番目に大きい数値です。

②　長期留学　種類別における傾向

交換留学の人数は、過去最多だった 2023 年度の人数を超えて、2014 年度以降で過去最多人数を更新しました。これは、協定校の新規開拓を進めてきたことや、個別の協定校の派遣人数枠の拡大に努めてきた結果と考えられます。

休学留学、自由留学に関しては、休学留学、自由留学ともに 2023 年度より人数が減少しています。両者の人数には大きな差はなく、交換留学者数の増加に反比例する形で、人数が減少しているといえます。協定校が増えて、交換留学で派遣できる人数が増えたことで、休学して留学するものが減少したと考えられます。

長期インターンシップについては、コロナ禍を経て緩やかな増加傾向にあり、2024 年度は過去最多となっています。教育機関への留学ではなく、海外での就労経験を希望する学生も増えており、海外の民間企業や、日系企業等でインターンシップを実施する学生が見られます。また、在外公館派遣員や国際交流基金の日本語パートナーズ派遣事業に参加する学生も多数います。

給付型奨学金受給状況

以下は、2024 年度に留学を経験した学生のうち交換留学、および休学・自由留学で分けた場合の受給状況となります。例年通り、交換留学の学生は多数が何らかの奨学金を受給しており、休学しての留学の場合は奨学金受給の機会が少ないことが伺えます。

Table 4-1.　**奨学金受給状況（交換留学生）**

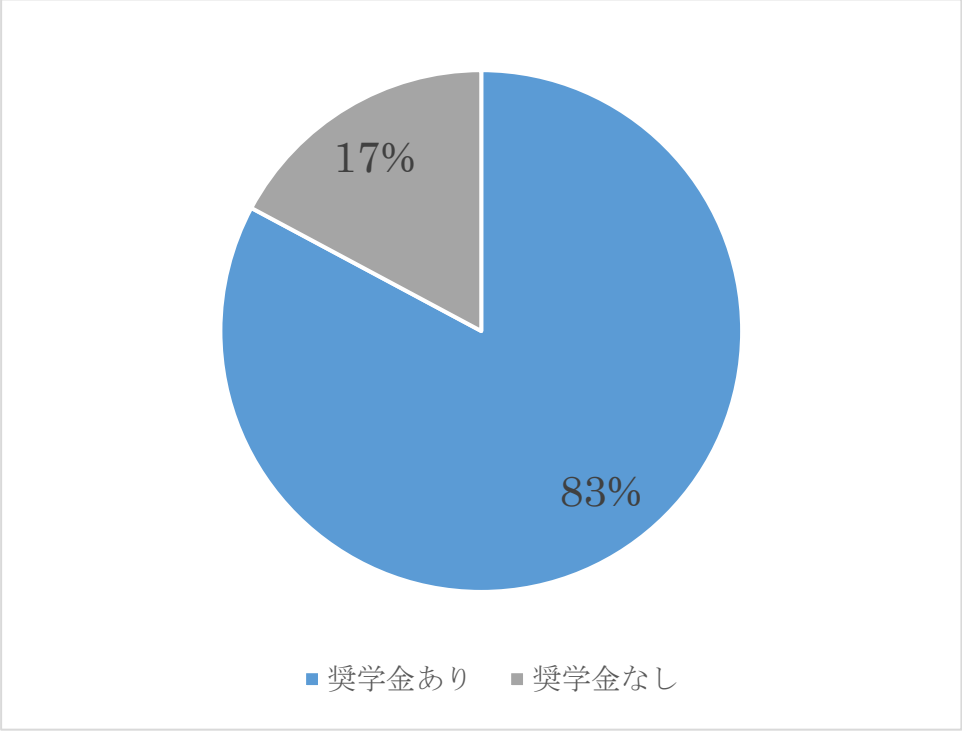


Table 4-2.　**奨学金受給状況（休学・自由留学）**

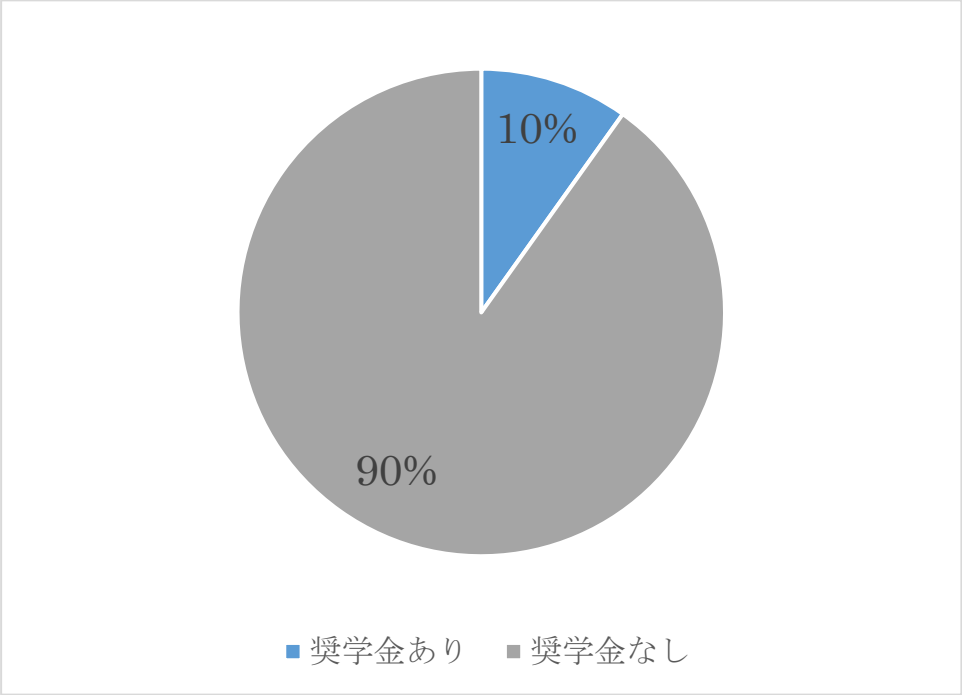
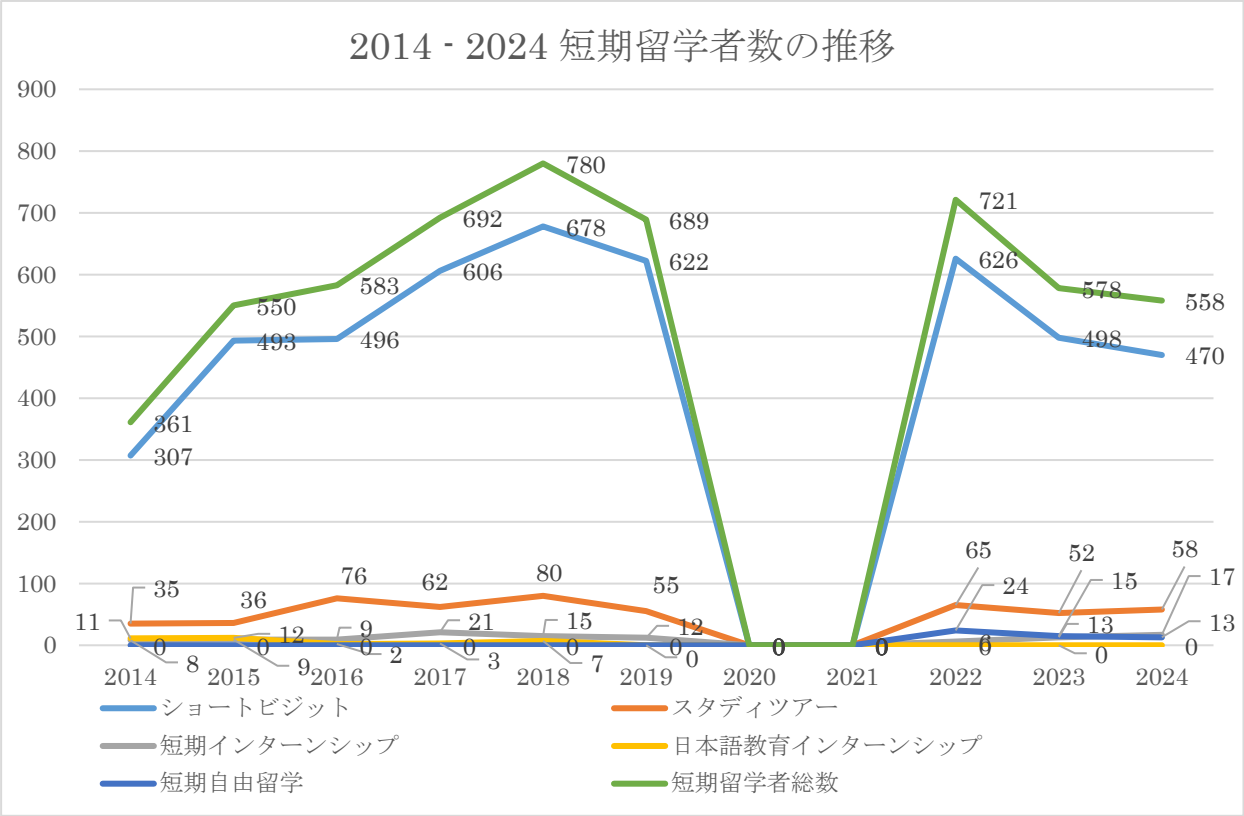


Table 5.　2024 年度短期留学者数



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626	498	470
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65	52	58
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6	13	17
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0	0	0	0
短期自由留学	0	0	0	0	0	0	0	0	24	15	13
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721	578	558

ショートビジットは、2014 年度から毎年順調に参加人数を増やしてきましたが、2020 年度、2021 年度は COVID-19 パンデミックの影響により現地派遣は中止となりました。2022 年から現地渡航を再開した結果、2022 年度は 2018 年度に次いで過去 2 番目に多い派遣人数となりましたが、2023 年度に続き 2024 年度も参加者数が減少しました。これは、依然として留学費用の高騰や不安定な世界情勢が続いている影響と推測されます。スタディツアーは、ウズベキスタン、国連、マレーシアの３つが実施されました。ウズベキスタンのスタディツアーの参加者が例年よりも若干減りました。日本語教育インターンシップはオンラインにて実施されており現地派遣は行っていない状況です。短期自由留学は、個人的に夏学期、冬学期に短期の留学をするもので、留学支援共同利用センターで把握できたものをカウントしています。短期留学者の減少が、留学者数全体に影響しています。

Ⅲ. データから見える傾向や課題等について

①短期留学者数について

2024 年度の傾向として顕著なのは、短期留学者の人数減です。長期留学者数は COVID-19 パンデミック前の水準まで回復していますが、短期留学者数は、2022 年度と比べて 2 年連続で減少しました。昨年度に続いてショートビジットプログラムの参加者が大きく減少しています。為替相場での円安傾向、世界的な物価上昇により、留学費用が高騰していることが背景にあると推測されます。短期留学の費用は、数年前を比べると 1.5 倍から 2 倍程度になっており、具体的には、アメリカの 4 週間の英語研修では 100 万円以上かかるケースも珍しくありません。そのような中、短期の留学を控えて、その分の費用は長期留学に充てるという判断をしている家庭も多くあると思われます。大学としては、奨学金情報の提供、奨学金応募時のサポート（書類へのアドバイス等）などを行うことで、経済的援助を必要とする学生が留学を実現できるよう支援していきます。

②留学の単位認定について

交換留学や休学留学では、帰国後に留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをすることが求められますが、手続きしない学生が一定数います。原則としては単位認定をすべきであるため、学生への啓発が必要と考えています。

留学白書 2022 に掲載されている交換留学者・休学留学者（2022 年度に帰国した学生および出発した学生）の単位認定状況は以下のとおりです。

留学白書 2022 掲載者の単位認定状況

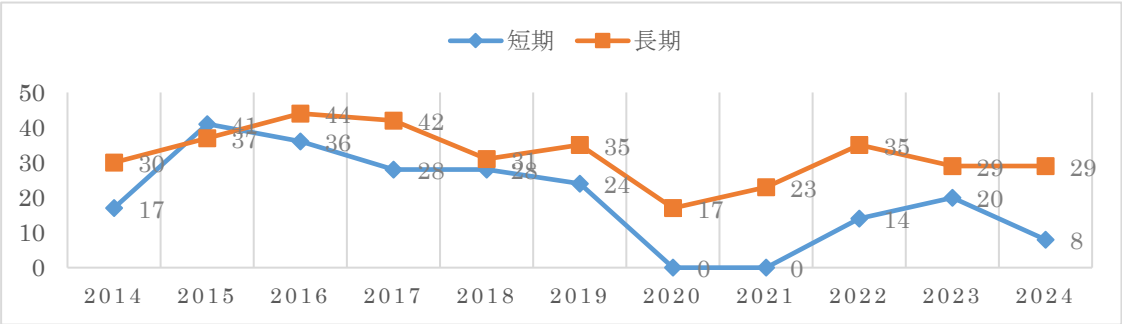
留学種類	留学者数（学部生）	うち単位認定有（2023 年度末まで）	単位認定者率
交換留学	413	287	69.5%
休学留学	105	44	41.9%

交換留学者でも単位認定を行った学生は 7 割程度、休学留学の場合は 4 割強となっています。交換留学者の単位認定者率は、例年 7 割程度ですが、留学先で取得した単位を本学で認定することは、留学の質保証の点からも重要です。引き続き単位認定手続きを確実に実施するよう、留学する学生に呼び掛けていきます。

③大学院生の留学について

大学院生の留学者数については、長期留学者は前年度と同数でしたが、短期留学者が減少しており、合計で前年度よりも減少しました。2016 年度のピーク時は 80 名でしたが、2024 年度は 37 名でした。2025 年度から本学において研究留学の助成制度が新たに開始されるため、そうした制度を利用して留学者が増えることを期待しています。

院 Table 1. 2014 年度から 2024 年度の大学院生の期間別留学者数の推移



Ⅳ. 2024 年度　留学状況

１．学部学生（長期・短期総合）

①留学者総数

2024 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2024 年度留学者総数（学部生）（学生総数は、2024 年 5 月 1 日時点）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	558	847	1,405	3,786

2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 847 人、短期留学者 558 人の、合計 1,405 人です。2023 年度は合計 1,395 人でしたので、若干の増加となりました。短期留学者は、2023 年度の 578 名から 558 名に減少しましたが、長期留学者は、2023 年度の 817 名から 847 名に増加しました。前述の通り、留学費用の高騰により、短期留学を控えて、長期留学に資金を充当しているケースがあるのではないかと推測します。なお、**長期留学者数には、2023 年度以前に留学を開始し 2024 年度中に帰国したものと、2024 年度中に出発して帰国したもの、また 2024 年度中に出発して 2025 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。**

②学年別・期間別留学者数

2024 年度の渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。

Table 6. 学年別・期間別留学者数　（太字は 5 割を超えた数）

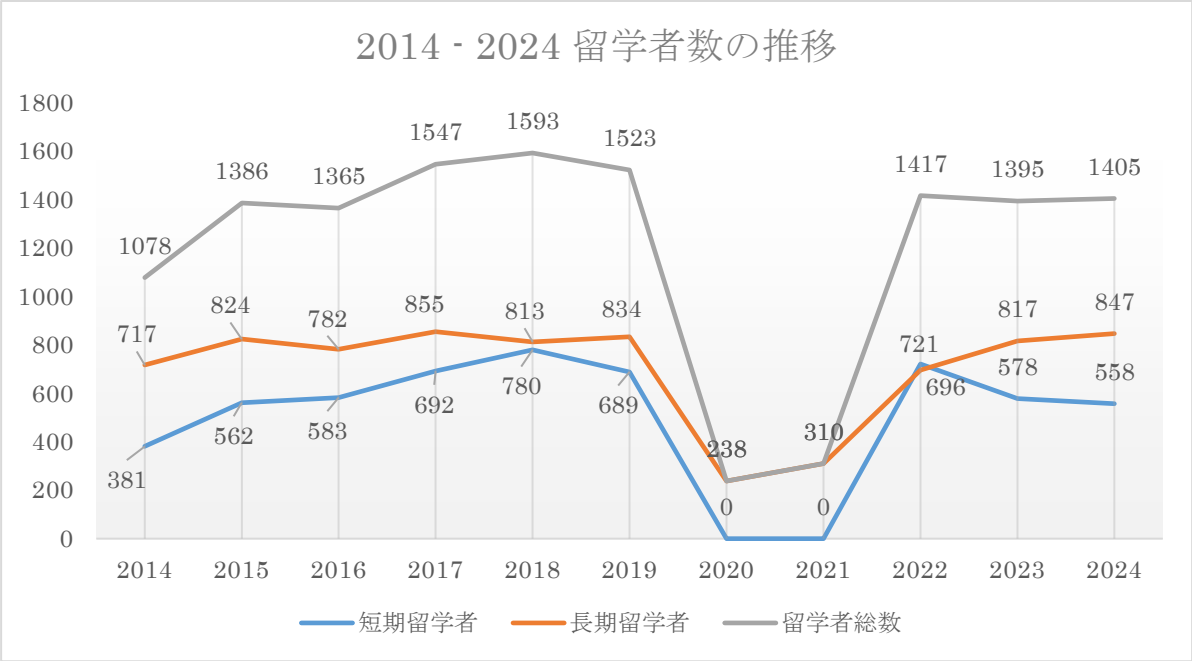
学年	短期	学生総数中の短期留学者数の割合	長期	学生総数中の長期留学者数の割合	留学者総数（人）	留学者数の割合	学生総数（人）
1	304	38.4%	3	0.4%	307	38.8%	792
2	195	23.3%	24	2.9%	219	26.2%	836
3	28	3.2%	**722**	81.5%	**750**	84.7%	886
4	31	2.4%	98	7.7%	129	10.1%	1,272
合計	558	14.7%	847	22.4%	1,405	37.1%	3,786

2024 年度の実渡航を伴う留学者数は上記の通り 3 年生が大多数を占めています。短期留学では、1、2 年生の参加者が多数を占めており、3、4 年生での短期留学者は少数です。長期留学では、3 年生の留学者数が一番大きくなっていますが、これは例年と同様の傾向です。

③2014 年度から 2024 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2024 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

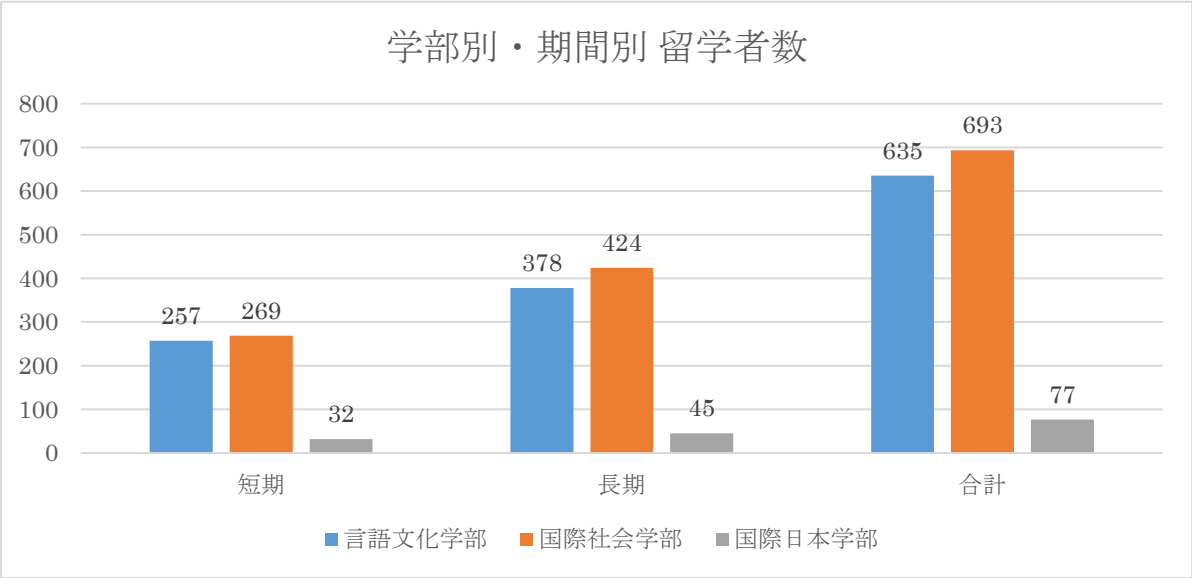
Table 7. 2014 年度から 2024 年度の期間別留学者数の推移

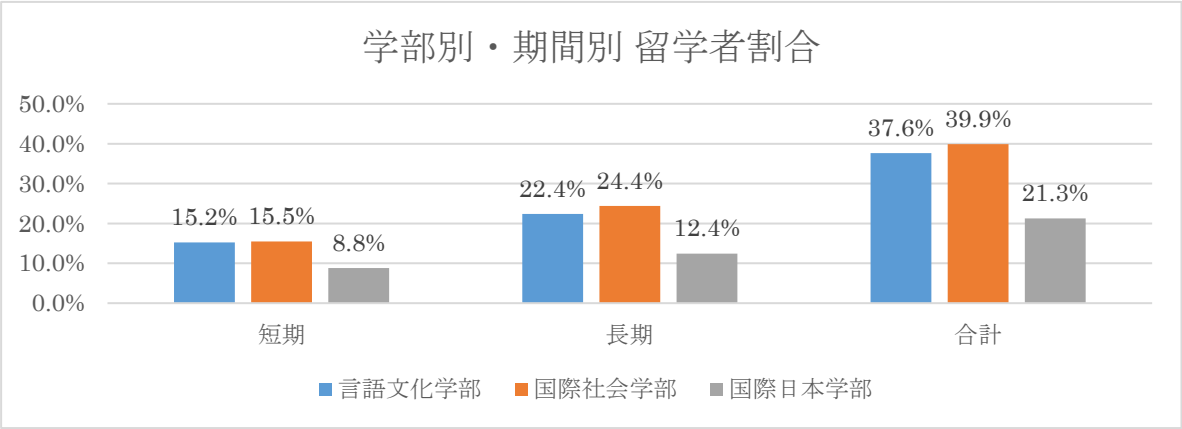


2024 年度は、2023 年度よりも若干留学者数が増加しました。長期留学者数は前年度を上回りましたが、短期留学者数が減少し、全体では 10 名増加となりました。

④学部別・期間別留学者数

Table 8. 学部別・期間別留学者数



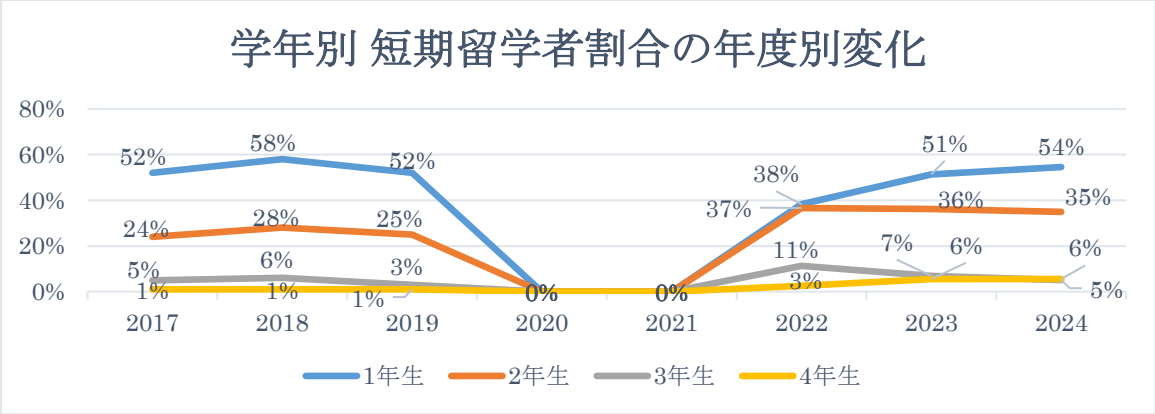


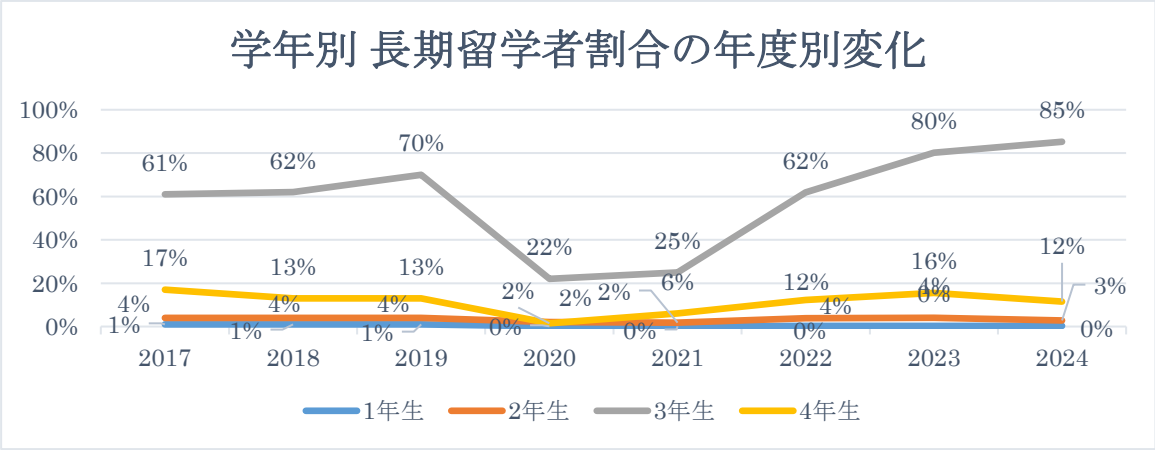
言語文化学部と国際社会学部の留学者割合を比べた場合、国際社会学部が若干多くなりましたが、それほど大きな差ではなく、2 つの学部の間で、留学者割合の顕著な違いは見られません。国際日本学部の留学者割合は、言語文化学部、国際社会学部の半分程度となっており、留学する学生が少ないことが分かります。これは、国際日本学部の学生の半数は留学生であることが要因となっていると考えられます。

⑤学年別、期間別の留学者割合の経年変化

短期留学に関して、2024 年度は 1 年生の参加者が全体の半数を超えています。2 年生以上の参加者は前年度とほぼ同水準で大きな変化は見られませんでした。長期留学に関しては、3 年生での参加が前年度よりも増加し、4 年生での留学者がやや減少しています。

Table 9. 学年別・留学期間別の留学者割合の経年変化





⑥専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語による留学者数・率は下記の通りです。日本語専攻は留学生も多数在籍しているため、留学者の割合が低い傾向にあります。

Table 10. **専攻言語別・期間別留学者数**　（留学者の割合が多い順）

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
タイ語	77	16	20.8%	27	35.1%	43	55.8%
ベンガル語	53	11	20.8%	17	32.1%	28	52.8%
ポーランド語	65	13	20.0%	20	30.8%	33	50.8%
ベトナム語	63	15	23.8%	16	25.4%	31	49.2%
朝鮮語	155	20	12.9%	52	33.5%	72	46.5%
トルコ語	69	18	26.1%	14	20.3%	32	46.4%
マレーシア語	54	14	25.9%	10	18.5%	24	44.4%
ドイツ語	243	44	18.1%	62	25.5%	106	43.6%
イタリア語	132	19	14.4%	38	28.8%	57	43.2%
ロシア語	283	61	21.6%	59	20.8%	120	42.4%
ポルトガル語	109	11	10.1%	35	32.1%	46	42.2%
中国語	261	39	14.9%	67	25.7%	106	40.6%
フランス語	260	40	15.4%	65	25.0%	105	40.4%
チェコ語	62	10	16.1%	15	24.2%	25	40.3%
カンボジア語	51	10	19.6%	10	19.6%	20	39.2%
スペイン語	293	44	15.0%	70	23.9%	114	38.9%
モンゴル語	68	15	22.1%	11	16.2%	26	38.2%
ヒンディー語	94	15	16.0%	20	21.3%	35	37.2%
ラオス語	39	2	5.1%	12	30.8%	14	35.9%
インドネシア語	98	10	10.2%	25	25.5%	35	35.7%
ビルマ語	46	7	15.2%	9	19.6%	16	34.8%
アラビア語	143	24	16.8%	24	16.8%	48	33.6%
フィリピン語	66	8	12.1%	12	18.2%	20	30.3%
英語	493	47	9.5%	90	18.3%	137	27.8%
ペルシャ語	69	6	8.7%	12	17.4%	18	26.1%
ウルドゥー語	70	7	10.0%	10	14.3%	17	24.3%
日本語	370	32	8.6%	45	12.2%	77	20.8%
総計	3786	558	14.7%	847	22.4%	1405	37.1%

２．学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

2024 年度に留学を開始した学生は 476 人、うち交換留学・DDP が 304 人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が 172 人です。

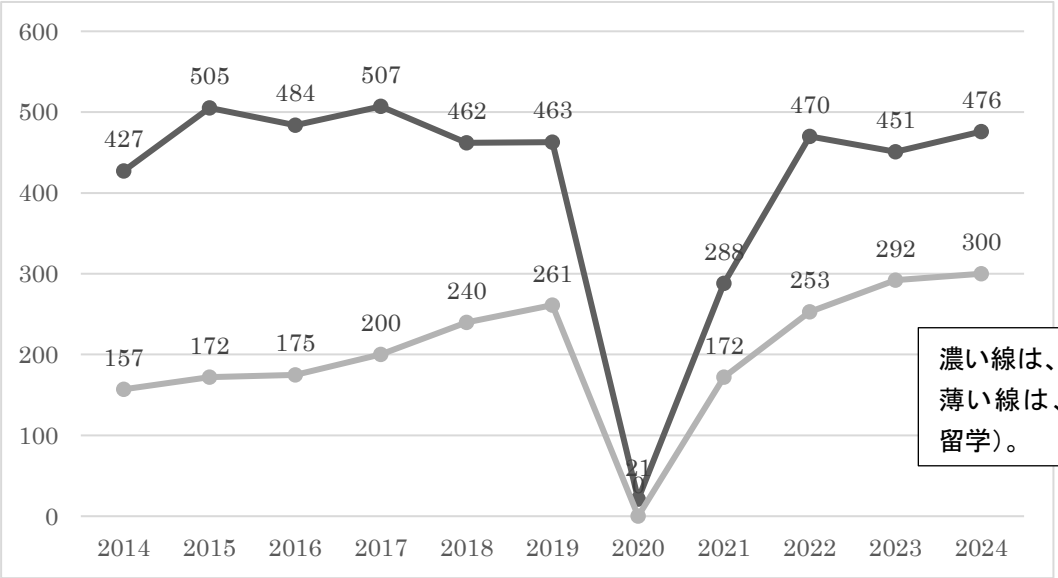
Table 11. 留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

	～2023 年度（前年度）出発者		2024 年度出発者		合計
	2023 年度以前出発、2024 年度帰国	2024 年度以前出発、2024 年度留学中	2024 年度出発	2024 年度帰国	
交換・DDP	250	0	261	43	554
休学留学	50	1	50	13	114
自由留学	44	0	43	22	109
長期インターン	18	8	30	14	70
合計	362	9	384	92	847
	371		476		

②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。当該年度出発者としては、交換留学者数は前年度を上回り、過去最高の数値となっています。協定校の新規開拓による交換留学派遣枠の拡大によるものと考えられます。

Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

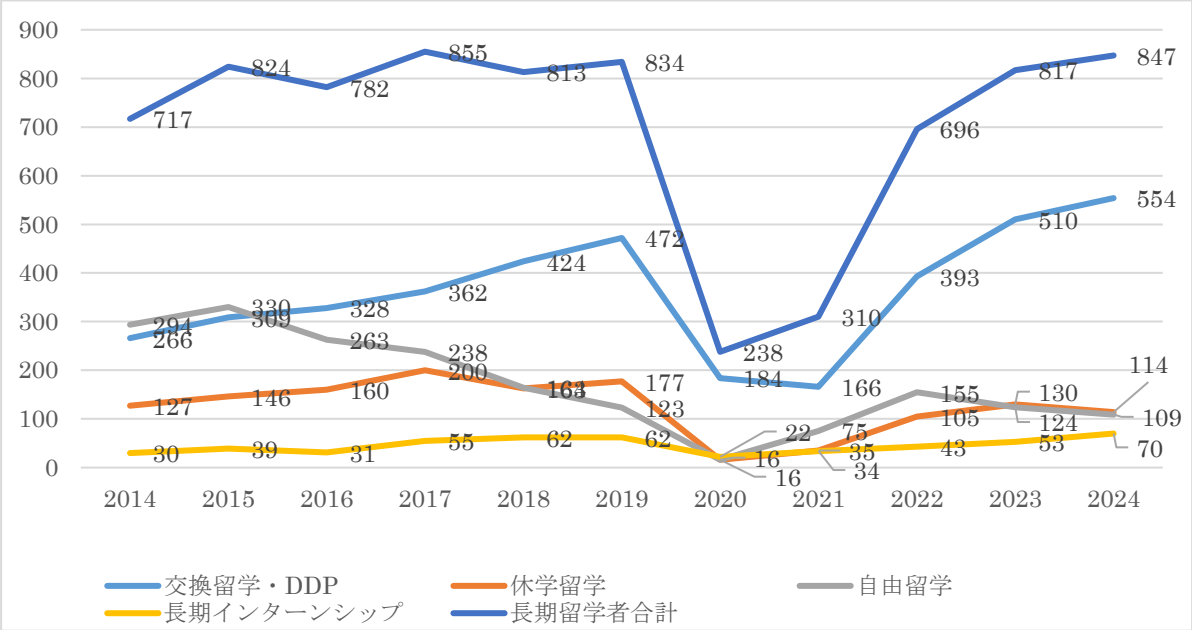


濃い線は、長期留学者全体。
薄い線は、派遣留学者（交換留学）。

③留学種類別長期留学者数の推移

長期留学の種類別留学者数の 2014 年度からの 10 年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3.　（再掲）　種類別長期留学者数の推移



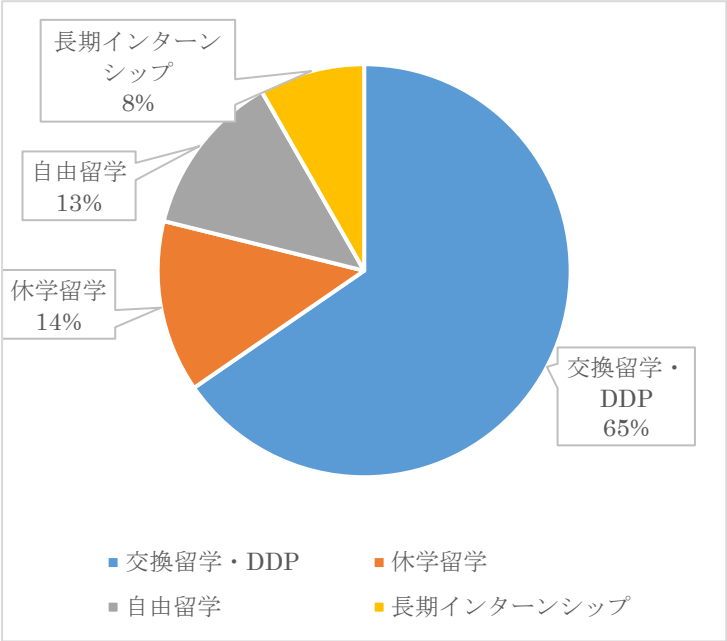
年度	交換留学・DDP	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014 年度	266	127	294	30	**717**
2015 年度	309	146	330	39	**824**
2016 年度	328	160	262	32	**782**
2017 年度	362	200	238	55	**855**
2018 年度	424	163	164	62	**813**
2019 年度	472	177	123	62	**834**
2020 年度	184	16	16	22	**238**
2021 年度	166	35	75	34	**310**
2022 年度	393	105	155	43	**696**
2023 年度	510	130	124	53	**817**
2024 年度	554	114	109	70	**847**

2023 年度と比較すると、留学者総数は 30 名増加しました。特に交換留学では、統計を取り始めた 2014 年度以降で最大数となりました。休学しての留学（休学留学・自由留学）は前年度に比べると減少しました。交換留学が増加すると休学しての留学が減少するというのは、これまでにもみられるパターンです。長期インターンシップ参加者は、2020 年度以降、ゆるやかな増加が続いています。

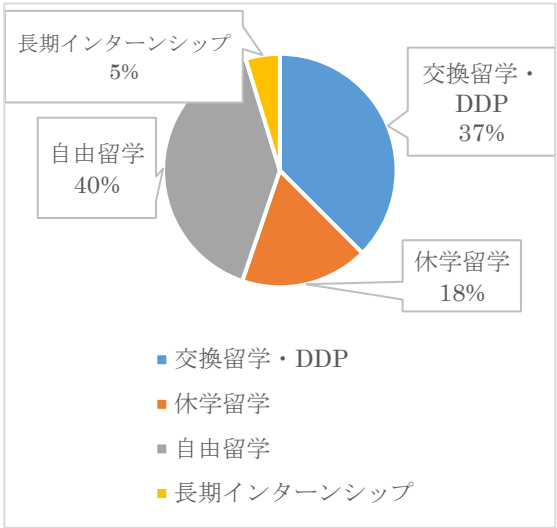
④留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。交換留学・DDP の割合が一番大きく 65%を占めています。これは例年通りの傾向と言えます。休学しての留学・渡航については、休学留学と自由留学がほぼ同じ割合となっています。参考として 2015 年度の割合を示したグラフを掲出しています。2015 年度は休学して留学する学生が全体の半数以上を占めていましたが、近年は交換留学が半数以上を占めており、この 10 年の間に、協定校の増加とともに留学種別の割合が変化してきていることがわかります。

Table 13.　種類別　長期留学者数の割合



【参考】2015 年度の同割合

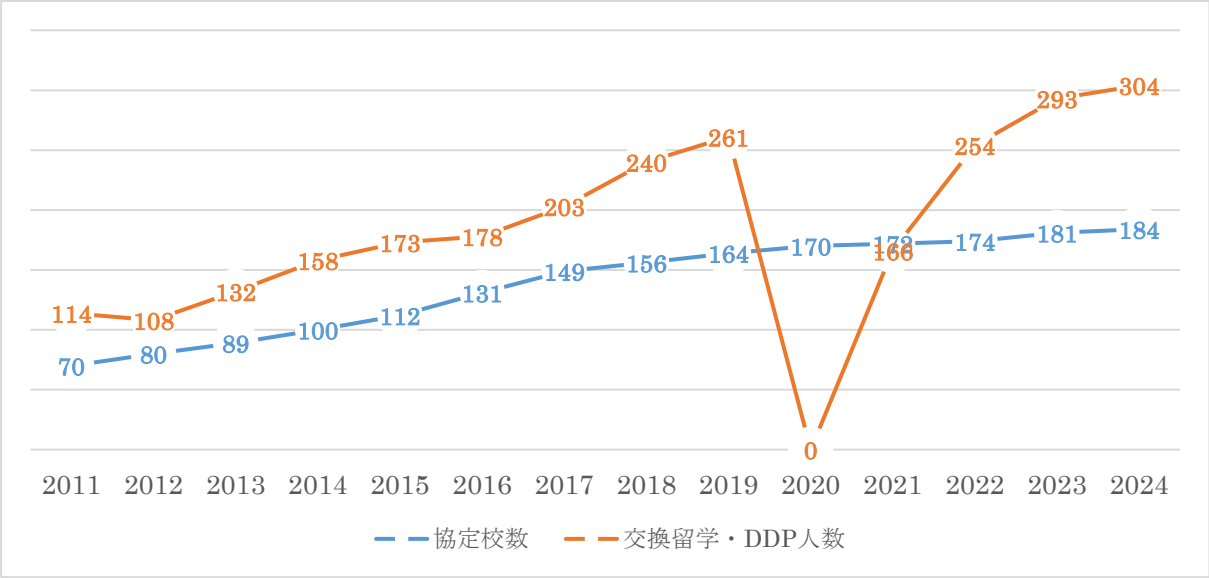


長期留学のうち、本学が特に推奨するのは、「交換留学」ですが、2024 年度では 554 名となり、これまで最大数だった前年度の 510 名を超えました。今後もこの傾向が続くものと予想されます。

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

2019 年度まで順調に交換留学者数が伸びていましたが、2020 年度は派遣を中止したためゼロとなり、2021 年度は夏から派遣を再開したため、派遣人数は 2019 年度よりも 100 名ほど少ない人数でした。2022 年度には、一部の国を除き派遣が全面的に再開したため、2019 年度に匹敵する人数となりました。2023 年度は 293 名と COVID-19 パンデミック以前の水準を超え、2024 年度はさらに増加し、過去最多となりました。今後は、協定校数の増加は非常に緩やかになると予想され、留学者数の増加も頭打ちとなる可能性がありますが、本学の学生人数規模に応じた適正な派遣人数というものがあると思われます。適度な競争性を維持し、優秀な学生を選抜するという意味でも今後はこの水準を維持する方向に進むべきと考えられます。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学・DDP 者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。ウクライナ情勢の影響によりロシア・中央アジア地域への留学者数は例年よりも少なくなっています。

Table 15. 留学先地域別・留学種類別長期留学者数

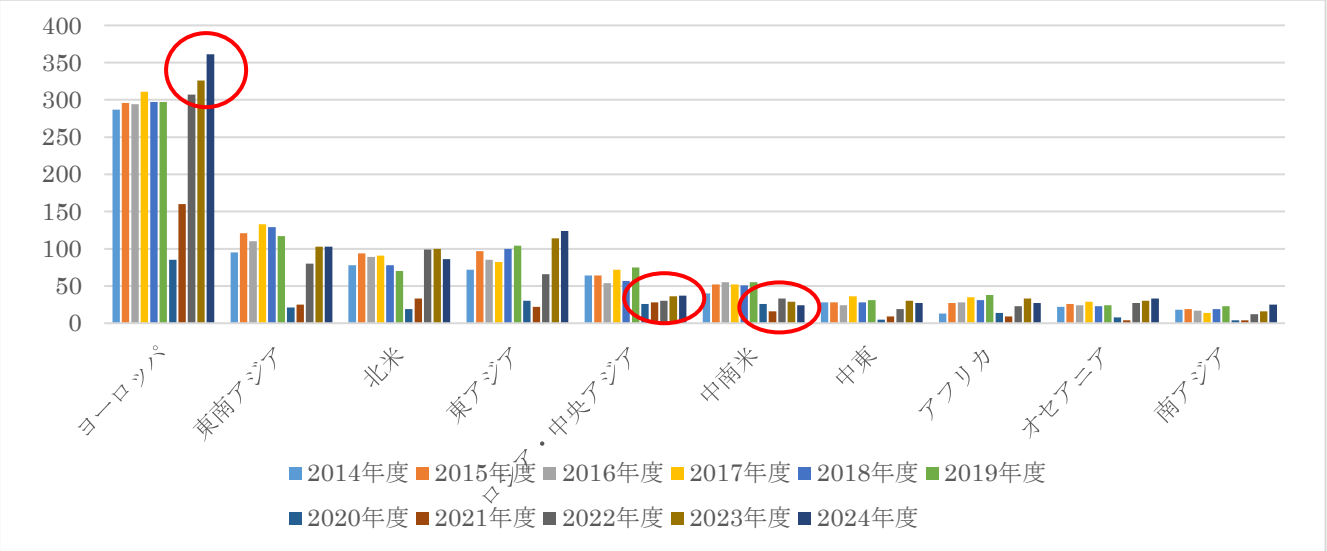
地域名	交換留学・DDP	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
ヨーロッパ	263	39	46	13	**361**
東南アジア	45	24	13	21	**103**
東アジア	101	10	10	3	**124**
ロシア・中央アジア	22	13	1	1	**37**
北米	47	10	20	9	**86**
中南米	20	3	1	0	**24**
アフリカ	22	0	1	4	**27**
中東	16	4	4	3	**27**
オセアニア	10	3	13	7	**33**
南アジア	8	8	0	9	**25**
合計	**554**	**114**	**109**	**70**	**847**

2024 年度に本学から長期留学をした学生の渡航先地域は、多い順にヨーロッパ、東アジア、東南アジア、北米となっています。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16.　留学先地域別長期留学者数の推移



留学先・地域名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297	85	160	307	326	361
東南アジア	95	121	110	133	129	117	21	25	80	103	103
北米	78	94	89	91	78	70	19	33	99	100	86
東アジア	72	97	85	82	100	104	30	22	66	114	124
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75	26	28	30	36	37
中南米	40	52	55	52	51	55	26	16	33	29	24
中東	28	28	24	36	28	31	5	9	19	30	27
アフリカ	13	27	28	35	31	38	14	9	23	33	27
オセアニア	22	26	24	29	23	24	8	4	27	30	33
南アジア	18	19	17	14	19	23	4	4	12	16	25
留学者数合計	717	824	780	855	813	834	238	310	696	817	847

最近の傾向として、ヨーロッパへの留学者が増えています。ロシア・中央アジアや中南米への留学者数が COVID-19 パンデミック前に比べると減少しています。前者はロシア、ベラルーシへの渡航ができない状況が影響しています。後者は、世界展開力強化事業（中南米）が終了した影響が出ているものと推測されます。北米への留学者が減少していますが、北米は特に留学費用が高額になりがちなためであると思われます。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2024 年度は留学人数が多かった国としては、大韓民国、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリス、スペインとなっており、上位 9 カ国は、北米、ヨーロッパ、東アジアの国々となっています。人数は少ないもののアフリカ諸国をはじめ、多様な国へ留学しているのは本学の特徴と言えます。

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インター	合計
1	大韓民国	39	7	7	2	55
2	アメリカ	36	8	5	5	54
2	ドイツ	46	3	4	1	54
4	フランス	43	3	4	3	53
5	イギリス	34	3	10	1	48
6	スペイン	30	6	8	2	46
7	イタリア	34	2	3	0	39
7	中国	35	1	3	0	39
9	カナダ	11	2	15	4	32
10	タイ	15	8	1	3	27
11	カザフスタン	10	13	1	0	24
11	台湾	21	2	0	1	24
13	インドネシア	4	9	7	2	22
13	ポルトガル	19	0	3	0	22
15	オーストラリア	7	2	8	4	21
16	アイルランド	14	1	3	1	19
16	インド	7	8	0	4	19
18	ベトナム	9	0	2	7	18
19	チェコ	8	6	1	0	15
20	トルコ	11	0	1	1	13
21	ポーランド	2	9	1	0	12
22	ウズベキスタン	11	0	0	0	11
22	フィンランド	4	3	3	1	11
22	ブラジル	10	1	0	0	11
25	ニュージーランド	3	1	4	2	10
25	フィリピン	3	5	1	1	10
27	マレーシア	1	2	1	3	7
28	エジプト	6	0	0	0	6
28	オランダ	4	0	0	2	6
28	シンガポール	5	0	1	0	6
28	スイス	6	0	0	0	6
28	バングラデシュ	1	0	0	5	6
28	モンゴル	6	0	0	0	6
28	リトアニア	5	1	0	0	6
28	南アフリカ	6	0	0	0	6

36	オマーン	4	0	0	1	5
36	カンボジア	2	0	0	3	5
36	メキシコ	3	1	1	0	5
36	ルワンダ	3	0	0	2	5
40	アルゼンチン	3	1	0	0	4
40	オーストリア	4	0	0	0	4
40	ノルウェー	3	0	1	0	4
40	ブルネイ	3	0	0	1	4
40	ベルギー	4	0	0	0	4
40	ヨルダン	1	3	0	0	4
40	ラオス	3	0	0	1	4
47	ガーナ	3	0	0	0	3
47	コロンビア	3	0	0	0	3
47	ザンビア	3	0	0	0	3
47	ブルガリア	3	0	0	0	3
47	マルタ	0	1	2	0	3
52	イラン	0	1	0	1	2
52	ハンガリー	0	0	1	1	2
54	UAE	0	0	1	0	1
54	アルメニア	0	1	0	0	1
54	エストニア	0	0	1	0	1
54	カタール	0	0	1	0	1
54	カメルーン	1	0	0	0	1
54	ギニア	0	0	0	1	1
54	キルギス	1	0	0	0	1
54	クウェート	0	0	1	0	1
54	スロバキア	0	0	0	1	1
54	セーシェル共和国	0	0	0	1	1
54	タジキスタン	0	0	0	1	1
54	チュニジア	0	0	1	0	1
54	チリ	1	0	0	0	1
54	デンマーク	0	0	1	0	1
54	トンガ	0	0	0	1	1
54	フィジー諸島	0	0	1	0	1
合計		554	114	109	70	847

留学先国・地域数合計：69

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学・DDP 参加者 549 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 458 人で、83.4%にのぼります。JASSO（日本学生支援機構）が多数を占めますが、業務スーパージャパンドリーム財団の奨学金受給者も多数います。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換留学 DDP	休学留学	自由留学	長期インターン	合計
JASSO	323				323
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	85				85
NAWA ポーランド政府奨学金		9	1		10
佐藤陽国際奨学財団	7				7
トビタテ！留学 JAPAN 奨学金	3	2			5
JASSO、エラスムス奨学金	3				3
JASSO、小山台教育財団海外チャレンジ支援	3				3
みずほ国際交流奨学財団	3				3
電通育英会	2		1		3
東京外国語大学基金	3				3
バーデン・ヴュルテンベルク州奨学金	3				3
JASSO、KDDI 財団奨学金	2				2
JASSO、UI SHINE scholarship	2				2
JASSO、東京海上各務記念財団	2				2
JASSO、飯塚毅育英会	2				2
JASSO、バーデン・ヴュルテンベルク州奨学金	2				2
「埼玉発世界行き」奨学金	1				1
IBP グローバル留学奨学金		1			1
JASSO、「埼玉発世界行き」奨学金	1				1
JASSO、国際中国語教師奨学金	1				1
JASSO、寺浦さよ子記念奨学金	1				1
JASSO、春秋育英会奨学金	1				1
JASSO、湘友会奨学財団奨学金	1				1
JASSO、朝鮮奨学金	1				1
エラスムス奨学金	1				1
ハンガリー政府奨学金			1		1
マブチ国際育英財団		1			1
学研災グローバル人材育成奨学金	1				1
現地大学からの奨学金		1			1
寺浦さよ子記念奨学会奨学金	1				1
淡江大学交換留学奨学金	1				1
南ｲﾝﾃﾞｨｱﾅ日本人補習校南ｲﾝﾃﾞｨｱﾅ大学留学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ			1		1
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画		1			1
トビタテ！留学 JAPAN 奨学金、「埼玉発世界行き」冠奨学金	1				1
国際ロータリー第 2550 地区奨学金		1			1
クウェート政府奨学金			1		1
リトアニア政府奨学金		1			1

なお、長期インターンシップの中には、在外公館勤務 26 名、および日本語パートナーズ派遣事業 3 名が含まれており、これらは公務での渡航となり給与等が支給されるものです。奨学金扱いではないため、上記表中にはカウントされていません。
ポーランド政府奨学金は、毎年多くの外大生が受給しています。

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1.　奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

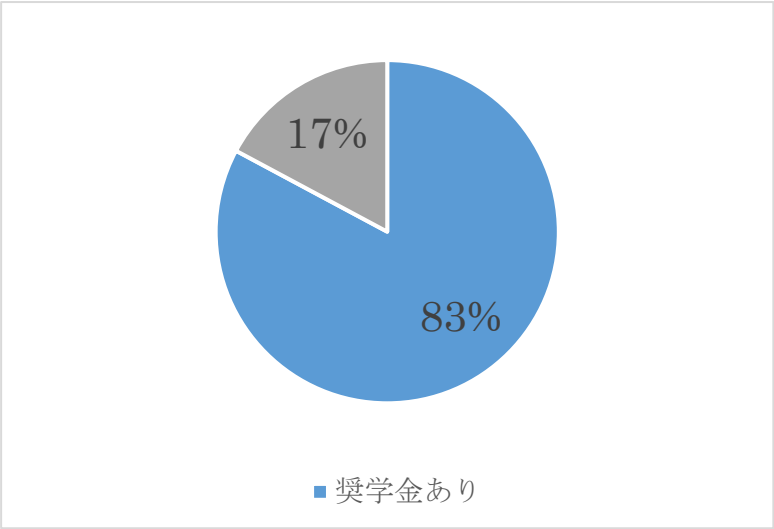
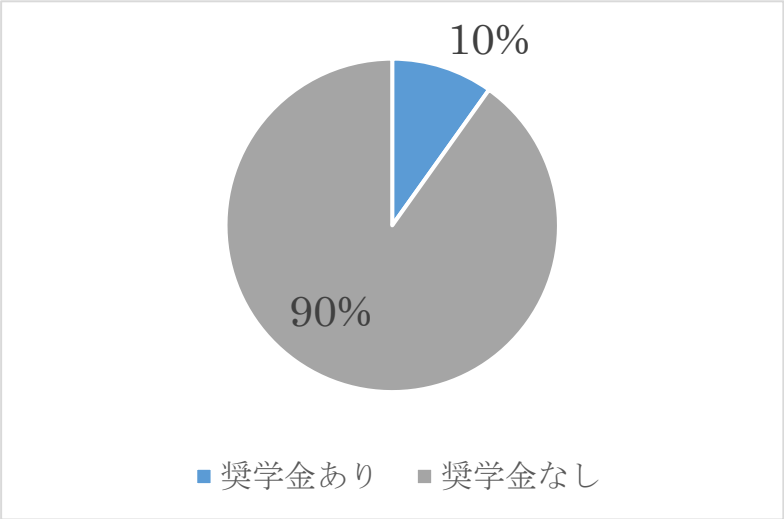


Table 4-2.　奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方が、それ以外の留学形態に比べて受給率が非常に高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19.　長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数（人）	留学者合計(人)	奨学金受給率
交換留学	549	508	92.5%
DDP	3	5	60.0%
休学留学	17	114	14.9%
自由留学	5	109	4.6%
長期インターンシップ(※)	0	70	0.0%
合計	479	847	56.6%

※長期インターンシップには、有給のものも含まれていますが、奨学金扱いではありません。

⑩2022 年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行うことが必要です。交換留学の場合、単位認定は帰国後 1 年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後 1 年以内に行うことになります。そのため、2022 年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2023 年度または 2024 年度に行われることになります。

2022 年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2025 年 3 月 31 日現在以下のとおりとなっています。

Table 20.　2022 年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況　（2025.3.31 現在）

	単位認定済（人）	**単位認定未済（人）**	**合計（人）**	**単位認定実施率**
交換留学	287	126	413	69.5%
休学留学	44	61	105	41.9%

JASSO の奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。ただし、留学先で取得した単位を本学の単位として認定する手続きをしない学生も一定数います。2022 年度の留学者については、交換留学では約 7 割となっています。この数値は、例年と同じような水準です。休学留学については、5 割を切っている状態です。留学前は単位認定申請の希望を出していながら、実際には手続きをしない学生が半数以上いるのは好ましくないため、単位認定をするよう働きかける必要があります。

３．学部（短期留学）

ここでは、学部生の短期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別短期留学者数

短期留学の参加者数を留学種類別に見てみます。

短期 Table 1 留学種類別留学者数

留学種類	人数
ショートビジット	470
スタディツアー	58
短期インターンシップ	17
短期自由留学	13
短期留学者総数	558

②学部別・留学種類別短期留学者数

学部ごとの参加者数は以下の通りです。

短期 Table 2 留学種類別・学部別短期留学者数

留学種類	言語文化	国際社会	国際日本	合計
ショートビジット	226	216	28	470
スタディツアー	21	36	1	58
短期インターンシップ	5	9	3	17
短期自由留学	5	8	0	13
合計	257	269	32	558

学部別では、国際社会学部の参加人数が一番多くなっています。

③学年別・留学種類別短期留学者数

学年別の参加人数は以下の通りです。

短期 Table 3 留学種類別・渡航時学年別短期留学者数

留学種類	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
ショートビジット	256	172	22	20	470
スタディツアー	45	9	3	1	58
短期インターンシップ	2	4	1	10	17
短期自由留学	1	10	1	1	13
合計	304	195	27	32	558

学年別では、1 年生の参加人数が一番多くなっています。ショートビジットでは、全体の半数以上が 1 年生です。

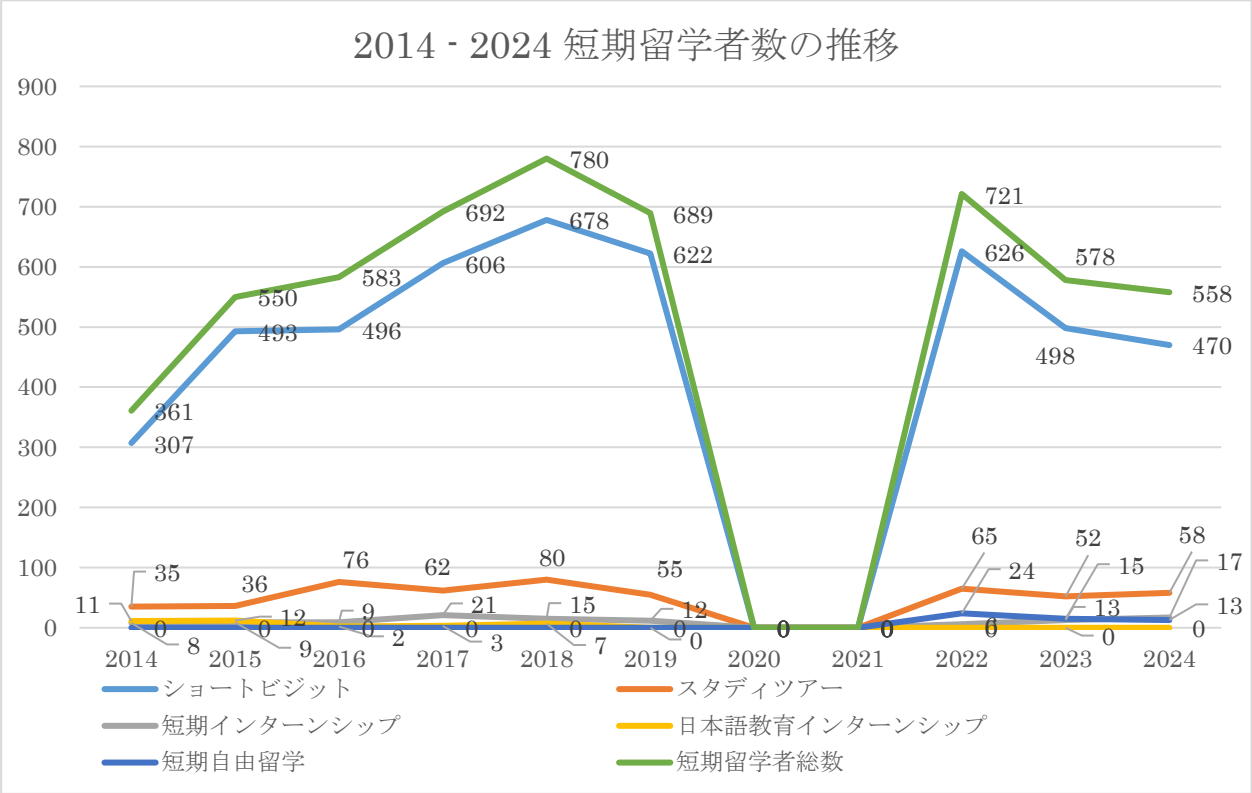
④留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

短期 Table 4 （再掲）留学種類別・年度別短期留学者数

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626	498	470
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65	52	58
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6	13	17
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	–	–	–	–	–
短期自由留学	–	–	–	–	–	–	–	–	24	15	13
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721	578	558

※2022 年度より、「短期自由留学」（個人的に短期留学したもの）という分類を追加。
※日本語教育インターンシップは COVID-19 パンデミック以降、オンライン化。
短期派遣全体では、ショートビジットの参加者が前年度に引き続き減少し、2014 年度以降では、下から 2 番目に少ない人数となりました。

短期 Table 5（再掲） 留学種類別・年度別短期留学者数推移



2020 年度、2021 年度は COVID-19 のパンデミックにより、短期留学の現地派遣は実施されず 2 年間、実績なしの状態が続きましたが、2022 年度に現地渡航を再開しました。2024 年度は、2023 年度よりも留学者数は減少しました。短期留学の大半を占めるショートビジットプログラムの参加人数減少が大きく影響しています。

⑤留学先地域別・留学種類別短期留学者数

短期留学者を地域別・種類別にみると、多い順にヨーロッパ、北米、東南アジアとなっています。

短期 Table 6 留学先地域別・留学種類別短期留学者数

地域	ショートビジット	スタディツアー	短期インターンシップ	短期自由留学	合計
ヨーロッパ	170	0	0	1	171
北米	83	24	0	0	107
東南アジア	44	10	5	0	59
中東	19	0	2	6	27
東アジア	64	5	5	6	80
南アジア	20	0	1	0	21
ロシア・中央アジア	27	19	0	0	46
オセアニア	33	0	1	0	34
アフリカ	9	0	2	0	11
中南米	1	0	1	0	2
総計	**498**	**58**	**17**	**13**	**558**

⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化

短期 Table 7 留学先地域別・短期留学者数の経年推移

地域	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヨーロッパ	107	175	168	209	214	243	0	0	234	198	171
北米	65	90	106	120	116	104	0	0	135	114	107
東南アジア	60	84	93	112	131	108	0	0	108	63	59
中東	20	31	28	42	41	30	0	0	64	29	27
東アジア	20	38	62	71	116	53	0	0	45	51	80
南アジア	0	9	16	17	33	40	0	0	44	32	21
ロシア・中央アジア	16	25	35	39	53	38	0	0	38	34	46
オセアニア	12	23	21	51	28	38	0	0	37	39	34
アフリカ	7	9	17	18	25	17	0	0	8	11	11
中南米	0	9	37	13	23	18	0	0	8	7	2
総計	**361**	**562**	**583**	**692**	**780**	**689**	**0**	**0**	**721**	**578**	**558**

2024 年度は、前年度よりも短期留学者数が減少しました。2022 年度と比較すると 150 名以上の減少となり、短期留学者の減少傾向が続いています。前年度に引き続き、世界的な物価上昇、為替相場での円安傾向などが影響して、留学に必要な費用が増大しており、経済的な理由により短期留学を見送る学生が増えたと推測しています。留学先地域の傾向については、全体の留学者数が減少する中で、東アジアへの留学者は増えています。近隣諸国のため航空券代が比較的安く抑えられることが、渡航者増につながっている可能性があります。ロシア中央アジアへの留学者数の増加については、ショートビジットプログラムにおいて、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスなど中央アジア諸国のプログラムの増加が影響していると思われます。

⑦留学先国別・留学種類別短期留学者数

短期 Table 8 留学先国別・留学種類別短期留学者数

番号	国名	ショートビジット	スタディツアー	短期インターンシップ	短期自由留学	合計
1	アメリカ	31	24			55
2	カナダ	52				52
3	アイルランド	44				44
4	大韓民国	31	5	2	5	43
5	イギリス	27				27
6	ウズベキスタン	6	19			25
6	ニュージーランド	24		1		25
8	ドイツ	22				22
9	インド	20		1		21
10	タイ	20				20
11	中国	15		2	1	18
12	スペイン	17				17
13	トルコ	9			6	15
14	台湾	13				13
14	オーストリア	13				13
14	カザフスタン	13				13
14	ベトナム	13				13
14	ポーランド	13				13
19	フランス	12				12
19	ヨルダン	10		2		12
21	マレーシア		10	1		11
22	フィリピン	9		1		10
23	イタリア	9				9
23	エジプト	9				9
23	オーストラリア	9				9
26	キルギス	8				8
27	チェコ	6			1	7
28	モンゴル	5				5
29	スイス	4				4
30	カンボジア			3		3
31	スロバキア	2				2
31	ブルネイ	2				2
33	コロンビア	1				1
33	ポルトガル	1				1
33	東ティモール			1		1
33	グアテマラ			1		1
33	ルワンダ			1		1
33	モザンビーク			1		1
合計		**470**	**58**	**17**	**13**	**558**

⑧短期留学者の単位認定状況

短期留学者の単位認定状況は次の通りです。

短期 Table 9 短期留学者の単位認定状況

留学種類	単位認定あり	単位認定なし	合計
ショートビジット	467	3	470
スタディツアー	58	0	58
短期インターンシップ		15	15
短期自由留学	0	13	13
合計	546	32	578

ショートビジットは本来単位認定がありますが、単位認定無しの 3 名のうち 1 名は、4 年生の冬学期の参加者（卒業までに単位認定作業が間に合わないため、単位認定無しでの参加）でした。残り 2 名は、履修登録漏れによるものです。短期インターンシップについては、2024 年度は単位認定ありのプログラムは実施されておりません。また、短期自由留学は私的な渡航の扱いとなるため、単位認定は行われません。

⑨短期留学者の奨学金受給状況

短期留学者の奨学金の受給状況は次の通りです。

短期 Table 10 短期留学者の奨学金受給状況

留学種類	奨学金あり	奨学金なし	合計
ショートビジット	114（24.3%）	356（75.7%）	470
スタディツアー	21（36.2%）	37（63.8%）	58
短期インターンシップ	8（47.1%）	9（52.9%）	17
短期自由留学	12（92.3%）	1（7.7%）	13
合計	155（27.8%）	403（72.2%）	558

ショートビジットでは JASSO の海外留学支援制度（協定派遣）を利用していますが、この制度では、重点政策枠を除き、31 日以上のプログラムを支援対象としていることから、過去と比較すると受給者割合は低くなっています（2019 年度は、58.5%の学生が受給）。スタディツアーでの奨学金は、JASSO が 20 名、国際教育支援基金が 1 名となっています。短期自由留学の奨学金あり 12 名の内訳は、大邱大学の韓日共同高等教育留学交流事業（韓国政府奨学金）に採用された学生が 3 名、トルコ政府奨学金受給者が 6 名、チェコ政府奨学金受給者が 1 名です。短期インターンシップの奨学金ありの 8 名のうち 7 名は、厳密に言えば奨学金ではありませんが、国際交流基金や JICA から支援を受けて短期の日本語教育や現地の国際交流事業に従事したもので、経済的援助があるため「奨学金あり」とみなしています。

４．大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 499 人（前期課程 295 人、後期課程 204 人）（2024 年５月１日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別長期留学状況

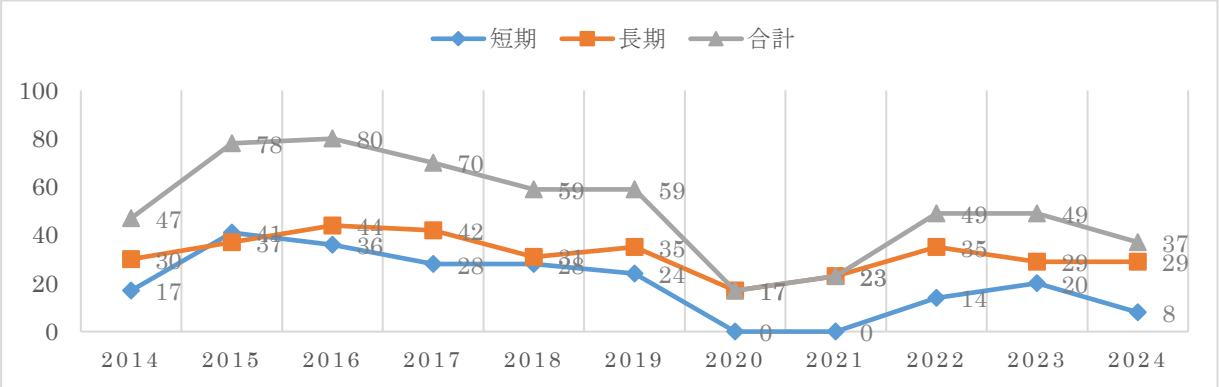
	2023 年度以前出発、2024 年度帰国	2023 年度以前出発、2024 年度留学中	2024 年度出発、帰国	2024 年度出発、2025 年度以降帰国	合計
交換留学	4	0	0	0	4
自由留学	1	2	0	4	7
長期インターンシップ	2	2	1	3	8
ダブルディグリー（HIPS）	5	0	1	4	10
合計	12	4	2	11	29

②大学院生の短期留学について

院 Table 3. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	3
ショートビジット	1
スタディツアー	0
短期自由留学	2
短期インターンシップ（日本語教育）	2
留学者合計	8

院 Table 1（再掲） 大学院生の留学期間別の留学者数の人数推移



大学院生の留学状況については、長期留学においては前年度と同水準でした。短期留学は、前年度より大きく減少しました。総数としても、前年度を下回り 2014 年度以降、COVID-19 パンデミックの時期（2020、2021 年度）を除いて、一番少ない人数となりました。大学院生にとっても留学費用の高騰は大きな影響を与えていると推測されます。

③大学院生の奨学金受給状況

短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 4.　留学種類別奨学金受給状況

期間	長期			短期				合計
奨学金名称	交換留学	自由留学	DDP (HIPS)	SV	JEP	自由留学	日本語P	合計
日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）	3	0	9	0	2	0	0	14
JASSO 海外留学支援制度（大学院学位取得型）	0	2	0	0	0	0	0	2
台湾政府教育省奨学金	0	1	0	0	0	0	0	1
中国政府奨学金	0	1	0	0	0	0	0	1
ポーランド政府奨学金	0	1	0	0	0	0	0	1
トルコ政府奨学金	0	0	0	0	0	1	0	1
東京外国語大学基金	0	0	0	0	1	0	0	1
国際交流基金	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	3	5	9	0	3	1	2	23

2024 年度は交換留学に参加した 3 名全員が JASSO の奨学金を受給しています。各国政府による奨学金は、大学院レベルに対して支給されるものも多く、2024 年度は 3 名が各国政府の奨学金を得ています。なお、長期インターンシップに参加した学生は奨学金の受給実績がないため上記の表には記載がありませんが、在外公館派遣員など、報酬（給与）を得ているケースもあります。

Ⅴ. 2024 年度学部卒業時点での留学状況について

2024 年度（3 月）には、768 名の学部生が卒業しました。768 人の在学中の留学状況をまとめると以下のようになります。（オンライン留学もカウントしています。）

卒業生（外国籍学生を含む）

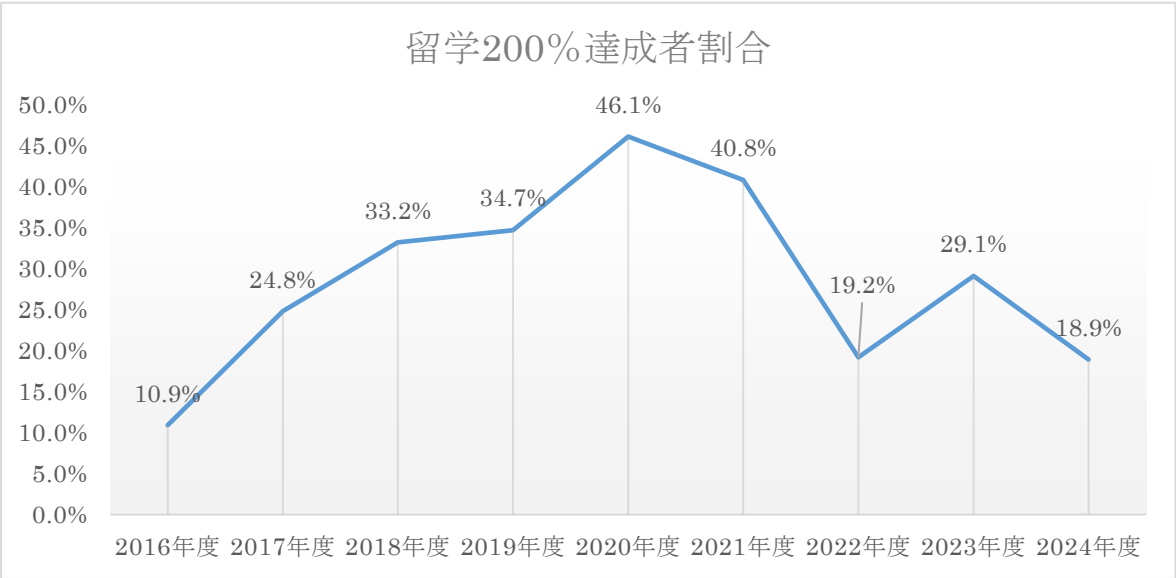
留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	214		
1 回	409		
2 回	121	145	
3 回以上	24		
合計	768	145	18.9%

※休学を伴わない私的な旅行等は対象外としています。

卒業生（日本国籍保持者のみ）【参考】

留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	178		
1 回	402		
2 回	119	143	
3 回以上	24		
合計	723	143	19.8%

「スーパーグローバル大学創成支援事業」が 2023 年度で終了した後も、同事業で掲げてきた「留学 200%」つまり、在学中に２度またはそれ以上の留学をすることを引き続き推奨しています。2016 年度以降、各年度の 3 月卒業の学生の留学状況を確認して、在学中に留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合等の数字を算出してきました。その推移は以下のグラフの通りです。2020 年度 46.1%をピークに、その後減少傾向にあります。2024 年度卒業者の大多数が 2020 年度、もしくは 2021 年度入学で、大学 1、2 年次は COVID-19 パンデミックの影響により、海外留学が大きく制限されていたことが影響していると考えられます。



①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学経験者数	短期のみ経験者数
1	409	304	105
2	121	94	27
3	22	18	4
4	2	2	0
合計	554	418	136

在学中に留学をした 554 名のうち 75.5%にあたる 418 名が長期留学を経験しています。この割合は、2020 年度 72.9%、2021 年度 53.3%、2022 年度 20.6%、2023 年度 66.6%でしたので、2024 年度 3 月卒業者については、前年に比べると長期留学経験者の割合が増加したことが分かります。全体の卒業者での割合でみると、卒業者 768 名のうち 418 名、54.4%が長期留学経験者の割合となります。留学回数 1 回の学生 409 名のうち、長期留学経験者は 304 名（74.3%）となっています。2023 年度は、この割合は 43.7%でした。このことから、1、2 年次は COVID-19 の影響により短期留学の機会が限られたが、長期留学に行くことができた学生が多かったという状況がうかがえます。

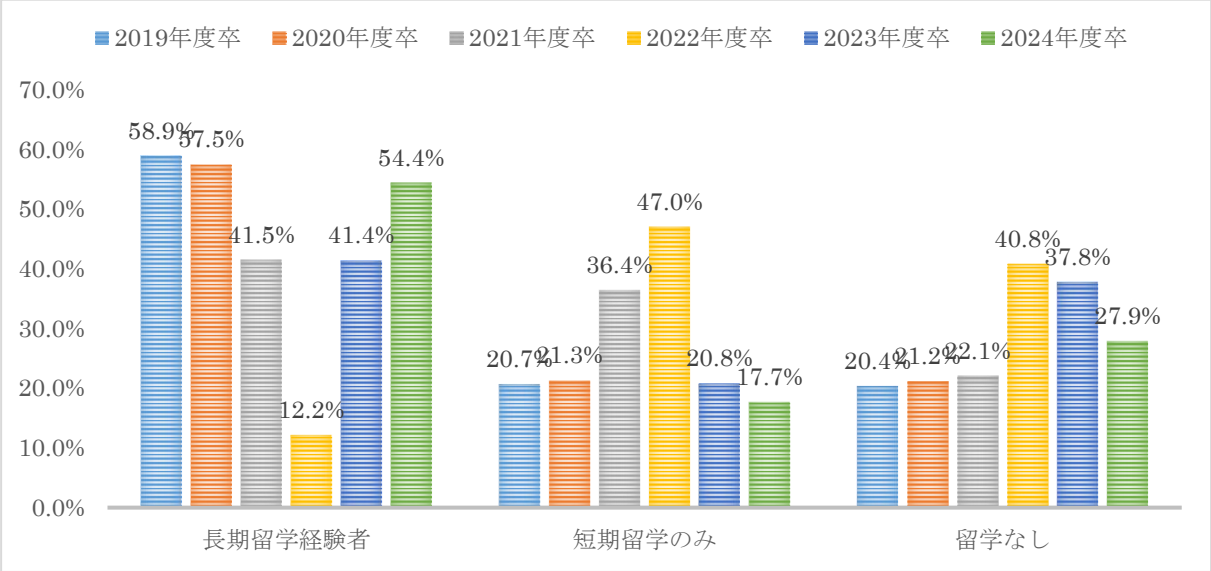
②2019～2023 年度と 2024 年度の卒業生の留学状況の比較

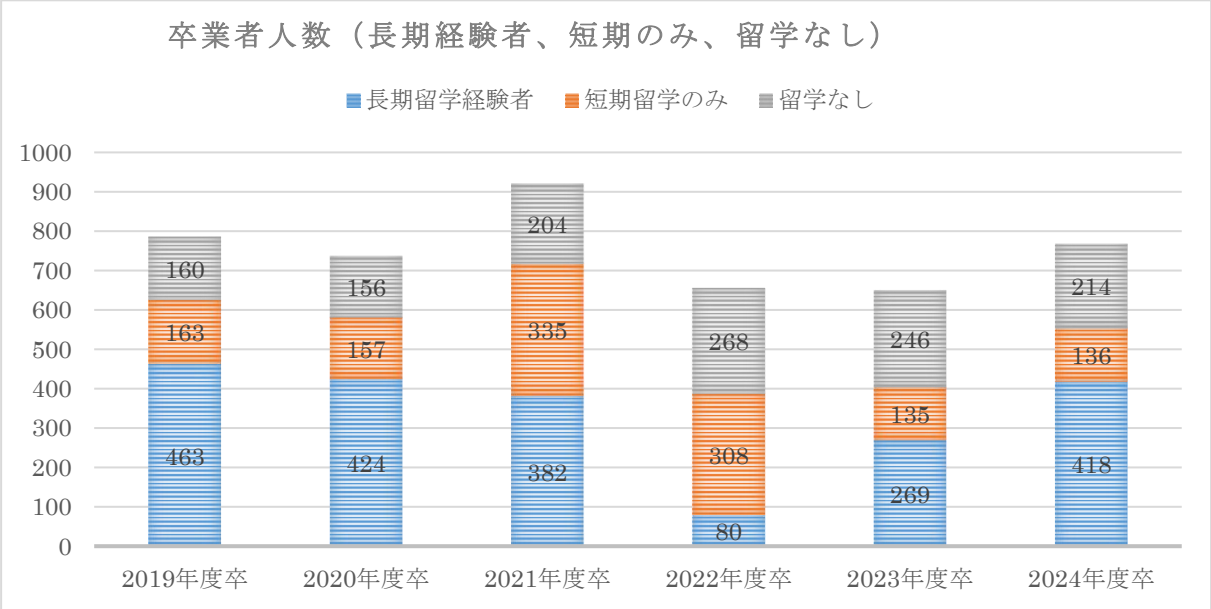
2018～2022 年度、および 2023 年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業者数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業者数に対する割合を比較します。表からは 2024 年度卒業生の長期留学経験者割合が 2020 年度卒業者と同水準まで回復していることがわかります。留学していない学生の割合も減少傾向にあり、COVID-19 パンデミックの影響はやや薄まっているように思われます。ただし、留学コストの上昇などによって、留学者数は想定していたほど増えていないのが現状です。

留学種類	2019 年度卒	2020 年度卒	2021 年度卒	2022 年度卒	2023 年度卒	2024 年度卒
長期留学経験者	463(58.9%)	424(57.5%)	382(41.5%)	80(12.2%)	269(41.4%)	418(54.4%)
短期留学のみ	163(20.7%)	157(21.3%)	335(36.4%)	308(47.0%)	135(20.8%)	136(17.7%)
留学なし	160(20.4%)	156(21.2%)	204(22.1%)	268(40.8%)	246(37.8%)	214(27.9%)
合計	786(100%)	737(100%)	921(100%)	656(100%)	650(100%)	768(100%)

長期留学経験者、短期留学のみ、留学なしの学生の割合を見ると、2019 年度、2020 年度卒は、同じような傾向が見て取れます。2021 年度卒、2022 年度卒では、COVID-19 パンデミックの影響を強く受けた世代と言え、それが数値にも表れています。2023 年度卒のデータでは、長期留学経験者の割合は、2021 年度卒と同水準になっているものの、留学なしの割合はかなり大きく、短期留学はせずに長期留学のみを経験した学生が増えたことがわかります。2024 年度卒では、長期留学経験者の割合が増え、短期留学のみ、留学なしの学生の割合は減っています。短期留学に参加する学年は、1 年次や 2 年次が多く、そのときに渡航制限が厳しかったことが数字に表れていると考えられます。





人数ベースで見ると、2024 年度卒と 2023 年度卒との比較では、長期留学経験者の割合が大きく増えているのが特徴的です。

③2024 年度（2025 年 3 月）の卒業生の入学年度別の留学状況

2024 年度卒業生の入学年度別の留学状況は以下の表の通りです。

入学年度	人数	留学なし	留学 1 回	留学 2 回	留学 3 回以上
2015 年度	1	0	1	0	0
2017 年度	4	3	0	1	0
2018 年度	7	4	2	0	1
2019 年度	63	11	23	23	6
2020 年度	409	43	288	67	11
2021 年度	262	138	91	28	5
2022 年度	10	4	3	2	1
2023 年度	12	11	1	0	0
合計	768	214	409	121	24

2022 年度、および 2023 年度入学者は、3 年次編入の学生です。

2021 年度入学者は 4 年間で卒業した学生で、約半数は留学なしとなっています。2020 年度入学者は 5 年間で卒業した学生で、人数割合が一番大きく、全体人数 409 名のうち 89.5%に当たる 366 名の学生が 1 回以上の留学をしています。

この 366 名のうち、長期留学経験者は 344 名となっています。5 年卒業となった 409 名のうち、長期留学経験者は、344 名、84.1%となります。長期留学を理由に卒業を 1 年延ばしている学生大多数を占めることが分かります。

2024 年度卒業生の入学年度別、長期留学経験者数および割合

入学年度	人数	留学あり	長期留学経験者数	留学ありのうち、長期留学経験者割合
2015 年度	1	1	1	100%
2017 年度	4	1	0	0%
2018 年度	7	3	1	33.3%
2019 年度	63	52	44	84.6%
2020 年度	409	366	344	94.0%
2021 年度	262	124	22	17.7%
2022 年度	10	6	6	100%
2023 年度	12	1	0	0%
合計	768	554	418	75.5%

Ⅵ.SGU 指標

＜参考情報＞ SGU 事業は 2023 年度で終了のため以下の情報は更新なし

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学の SGU 構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学 200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：１．国際化関連 （２）流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

文科省定義：

・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。

・大学院生について、教員の指導の下、３ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注 1）単位取得を伴う海外留学経験者数（A）については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注 2）当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても１人として計上。

注 3）全学生数（D）は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数（５月１日時点・非正規課程の学生を含む）。

１．国際化関連 （２）流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
単位取得を伴う海外留学経験者数（A）（人）	119	393	699	750	845	972	847	332	204	741	**768**
うち女性（人）				578	607	738	590	264	156	538	**581**
うち学部（B）（人）	119	386	669	723	825	948	837	332	203	733	**759**
うち女性（人）				558	593	722	583	264	155	528	**575**
うち大学院（C）（人）	0	7	30	27	20	24	10	0	1	8	**9**
うち女性（人）				20	14	16	7	0	1	8	**6**
全学生数（D）（人）	3979	3960	4019	3989	3988	3972	3982	3903	4318	4144	**4208**
うち女性（人）				2589	2597	2597			2785	2658	
うち学部（E）（人）	3667	3654	3737	3685	3670	3694	3693	3639	3801	3606	**3684**
うち女性（人）				2427	2432	2431			2473	2338	
うち大学院（F）（人）	312	306	282	304	318	278	289	264	517	538	**524**
うち女性（人）				162	165	166			312	320	
割合（A／D）%	3.0	9.9	17.4	18.8	21.2	24.5	21.3	8.3	4.7	17.9	**18.3**
割合（B／E）%	3.2	10.6	17.9	19.6	22.5	25.7	22.7	8.9	5.3	20.3	**20.6**
割合（C／F）%	0	2.3	10.6	8.9	6.3	8.6	3.5	0	0.2	1.5	**1.7**
教員の指導の下、３ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）（人）	32	23	25	40	41	30	35	15	22	35	**29**
割合（G／F）%	10.3	7.5	8.9	13.2	12.9	10.8	12.1	5.7	4.3	6.5	**5.5**

日本国籍を有する正規学生数（全学生数）と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。
また、大学院生について、教員の指導の下、3 ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。

2023 年度のフォローアップ調査票では、留学者数の内訳に関して、女性の人数だけでなく、「実渡航」「オンライン」「ハイブリッド」に分けて報告した。

本学定義（算出方法）：

<u>単位取得を伴う海外留学経験者数（A）について</u>

・①2023 年度出発、帰国の学部生：単位認定をした日本国籍の交換留学、休学留学、ショートビジット、スタディツアー、日本語教育インターンシップの人数
・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える（日本国籍保持者）。
・③②から本年度に 2 度の留学をし、2 回とも単位取得しているものを差し引く。

<u>大学院（C）について</u>

①大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学、国際機関インターンシップ、大学院生向け TUFS Joint Education Program、日本語教育インターンシップ、ショートビジット、スタディツアーの人数
・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える。
・③2 から本年度に 2 度の留学をし、2 回とも単位取得しているものを差し引く。

<u>教員の指導の下、３ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）について</u>

単位取得の有無は問わない。
3 ヶ月以上派遣された日本国籍の大学院生（交換、自由、DDP（HIPS）、長期インターン）をカウントする。

◆SGU 指標：１．国際化関連　（２）流動性　②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。
・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。
注 1）当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。
注 2）年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。
注 3）日本人学生（A）の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。
注 4）全学生数（B・D）は学校基本調査の定義を引用（2023 年５月１日時点・非正規課程の学生を含む）。

１．国際化関連　（２）流動性
②大学間協定に基づく交流数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数（A）	310	568	797	819	950	1093	1069	310	344	1037	**1018**
うち女性				612	664	854	753	246	258	751	**774**
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	566	676	737	690	161	135	690	**655**
うち女性				444	477	611	477	134	106	499	**508**
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	232	258	324	360	147	206	327	**342**
うち女性				155	180	222	264	111	150	236	**248**
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	18	12	23	10	0	1	5	**10**
うち女性				12	6	17	7	0	1	5	**8**
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	3	4	9	9	2	2	15	**11**
うち女性				1	1	4	5	1	1	11	**10**
全学生数（B）	4559	4592	4647	4721	4690		4414	3903	4318	4144	**4208**
（うち女性）				3097	3051				2785	2658	
割合（A／B）（%）	6.8	12.4	17.2	17.3	20.3		25.1	7.9	8.0	25.0	**24.2**

本学定義（算出方法）:

<u>大学間協定に基づく派遣日本人学生数（A）について</u>

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計し、協定に基づき二度の留学をして 2 回とも単位認定をしている学生を差し引く。

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出。これに単位認定のなかった夏学期のショートビジット参加者で日本国籍を持つ学生を加える。

うち単位取得を伴う大学院生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジット、協定校への JEP(非協定校除く）、協定に基づき二度の留学をして 2 回とも単位認定をしている学生を差し引く。

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

うち単位取得を伴わない大学院生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える。

◆独自指標

（指標３）留学 200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める２度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍及び単位取得の有無は問わない。

（指標４）本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。２回留学したものは、２回カウント。また、単位取得の有無は問わない。２地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。（オンライン留学も含む）

大学独自の成果指標と達成目標											
＜定量的＞											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
（指標３）留学 200%達成者（%）	0	1.0	11.1	10.9	24.8	33.2	34.7	46.1	40.8	19.2	**29.1**
（指標４）本学学生の全世界的展開（人）	447	751	1039	1111	1613	1656	1582	406	525	1478	**1445**
うち北米	44	112	134	156	216	200	179	43	66	237	**218**
うち欧州	183	254	374	361	536	526	559	135	229	566	**550**
うちﾛｼｱ/中央ｱｼﾞｱ	66	71	81	89	119	114	115	34	44	69	**71**
うちアフリカ	1	14	20	29	55	56	56	14	10	34	**49**
うち中近東	20	43	49	46	81	72	163	25	35	87	**59**
うち東南アジア	45	114	151	156	256	276	239	69	54	195	**171**
うち南アジア	1	21	24	20	32	56	64	6	6	56	**49**
うち東アジア	69	83	138	145	168	222	166	41	61	125	**169**
うち中南米	11	15	32	70	70	81	77	28	16	44	**40**
うちオセアニア	7	24	42	39	80	53	64	11	4	65	**69**

資料編